



在外研究レポート

著者	宮脇 幸治
雑誌名	エコノフォーラム21 : 学生と教職員のインターコミュニケーション誌
号	21
ページ	18-18
発行年	2015-03-15
URL	http://hdl.handle.net/10236/00026108

在外研究レポート

宮脇 幸治 准教授

私は2014年9月から2016年8月までオハイオ州立大学統計学部で留学しています。このレポートでは私の留学先であるオハイオ州、またオハイオ州立大学とその統計学部について書いてみたいと思います。

アメリカ合衆国オハイオ州は、日本ではあまり馴染みがない州だと思います。地理的には、五大湖の一つエリー湖の南岸に接する州であり、イリノイ州シカゴから飛行機で約一時間半程度東に位置しています。アメリカは様々な人が織りなす文化が特徴的ですが、その中でもオハイオ州は典型的なアメリカであると考えられており、マーケティングなどの調査を行う際も、オハイオ州で行うことが多いようです。

オハイオ州にはいくつか大学がありますが、州都コロンバスにあるのがオハイオ州立大学で、非常に規模の大きな大学です。そのため様々な学部があり、そのうちの一つが統計学部です。現在日本では統計学部という学部は見かけないと思います。日本では、統計学を教える教員は各学部、例えば経済学部や商学部、理工学部や教育学部等々、にそれぞれ所属しています。しかしアメリカの大学では統計学部という統計学

を専門とする教員が集まる学部がある場合があります。そこでは、初等的な統計学の教育から専門的なものまで、様々な統計学に関する教育及び研究が行われています。（ただし統計学を用いる全領域が集まっているようではないようです。）

そこでどのような教育が行われているか見てみましょう。まず通常の先生が学生に教えるという形での講義はもちろん行われています。統計学自体、非常に応用範囲が広く様々な学問分野と関わりを持つという性質上、その講義も非常に幅広いものとなります。またセミナーも学期中は毎週行われています。発表者は若手から年配の研究者まで、またその発表内容も扱うトピックが様々であるため、大変に興味深いものとなっています。

本統計学部で特徴的だと感じたのは、リーディンググループと呼ばれる集まりがあることです。これは例えばベイズ統計学（という専門分野）に興味がある教員と学生が集まり、決められたテーマに関わりがある論文を紹介するというものです。グループごとにテーマと紹介してほしい論文を決める教員が決まっているよう

で、それに従って二週間に一回集まり、主に学生が論文紹介を行う形式で進められます。学生はだいたい二人一組で、教員と組む場合もあります。このような集まりが成立している背景には、ここオハイオ州立大学の統計学教員の人数が多いこと、また統計学に関心を持つ学生が多いことがあると感じています。